

160年の歴史感じて

増毛山道 今年初のトレッキング

【増毛】江戸時代末期に開かれた交易・生活路「増毛山道」を歩く今年初の体験トレッキング(留萌振興局、NPO法人増毛山道の会主催)が12日行われ、留萌や札幌などから集まった10人が約160年の歴史を刻んだ道を踏みしめた。

(野崎正夫)

増毛山道は増毛町別対―石狩市浜益区幌の約27キロ。安政4年(1857年)、幕府の命を受けた商人の伊達林右衛門が開削した。2009年度と10年度に留萌振興局と同会が別対―岩尾間の約16キロを部分復元し

た。今月後半から雄冬山(1977メートル)直下まで約5キロの復元に取りかかる。体験トレッキングは4年

目。今回はミニコースで行われ、参加者は標高約600メートル地点まで車で行き、往復5キロを約3時間かけて歩いた。同会会員の説明を受け、山道に残る明治時代の電信線の電柱、郵便物の中継に使われた武好(むこう)駅通跡、1等水準点を見学した。

石狩市の金井哲夫さん(76)は「緑の回廊みたいで気持ちよく歩けた」、妻の幸子さん(70)は「歴史が感じ取れた」と話した。参加者は町内の歴史的建造物も見学した。

今年の体験トレッキングは10月下旬まで今後6回予定され、8月16日のミニコース(5キロ)などの申し込みを受け付けている。問い合わせは同会 ☎0164・56・00003へ。



増毛山道の会会員(右)の説明を聞く体験トレッキング参加者